

# 令和元年度 磐田市立豊田南中学校 学校評価書

重点	目標・取組(項目)	評価指標	自己評価	考察・改善策	学校関係者評価委員から
学校経営の視点		保護者は、学校が目指している子どもの姿や教育内容について知っているか。	A	89%(昨年度も89%)の保護者が「たよりや各種活動の参観などを通して、学校が目指している子どもの姿や教育内容がわかる」と回答しており、保護者の関心が学校にしっかり向けられていると感じる。また、87%(昨年度は88%)の生徒が「先生は自分のことを理解してくれる」と回答しており、教師と生徒との信頼関係が構築されていると考えられる。今後も、一人一人の生徒理解と個々のニーズに対応した支援に努めていきたい。	・教師と生徒の関係がしっかり構築されているとすれば、いじめや不登校などの問題は自ずと解消に向かうのではないだろうか。 ・「南中賛歌」など学校の便りから、学校行事、生徒の頑張る姿、様子が伝わってくる。10/29発行の便りの中で「先生はあなたの良いところを認めてくれていてと思うか」の質問に肯定的に捉えている生徒の割合が高いとあり、教師・生徒の信頼関係が築かれていることは、大変喜ばしい。昨年に続き、生徒と「対話」する環境づくりを心掛けていただきたい。
		先生は子どものことを理解して指導にあたっているか。	A		
伝え合い学び合う力の育成(自ら学ぶ)	よくわかる授業の実践	生徒は、授業で学習した内容がわかっているか。	A	85%(昨年度は83%)の生徒は「授業で学習した内容がわかる」と回答している。教師が授業改善に取り組み、基礎・基本の定着や表現力・思考力を伸ばすために「わかる授業」を行っていることの表れである。それに対して「進んで学習している」と回答した生徒の割合は70%(昨年度は74%、一昨年度は77%)と低下の傾向にある。学習意欲を喚起する授業課題をつくったり、家庭学習の仕方を指導したりするなど、生徒が受け身ではなく主体的に学習に取り組むよう手立てを講じていきたい。	・新しい学習指導要領では、アクティブ・ラーニングを掲げています。生徒が受け身ではなく主体的に学習に取り組むには、従来の方法を変える発想が必要かと思えます。 ・家庭学習への主体的な取り組みが不十分な面も考えられるため、地域資源で活用可能なものがあれば、効果的に役立てる検討してほしい。 ・「進んで学習している」生徒の割合が低下傾向にあるにも関わらず、「授業内容がわかる」と回答した割合は増加している。先生方の「わかる授業」のための創意工夫の結果と思われる。が、反面、「進んで学習しないが、やらざるを得ない宿題」が多いということはないだろうか。一人一人が目標を持ち、何のために学ぶのかを子ども自身が考え、意欲的に取り組んで欲しい。
		生徒は、進んで学習しているか。	B		
		生徒は、住んでいる地域のことに興味があるか。	A		
かかわり合いを深め質の高い集団の育成(共に生きる)	主体性の実践	生徒は、自分の進路や将来の生き方について考えを持っているか。	A	「進路や生き方について考えている」の肯定的な評価は80%(昨年度は83%)であり、今後も、計画的に発達段階に応じたキャリア教育を進めていきたい。また、保護者が「子どもが目標をもって生活している」と感じている割合は83%(昨年度は76%)であった。子どもたちの将来に向けて、個々の視野を広げさせるために、CSD活用したり、地域や家庭に理解と協力を図ったりしながら、子どもたちが目標をもった生活を送れるよう指導したい。	・プライドだけが強く、困難から逃げてしまう子の増加も、不登校増加の一因かと思えます。失敗にもくじけぬ力の育成を小中一貫で更に進めていただきたい。 ・「未来授業」として外部の方々を講師として招き、多方面の「仕事をする」話を聞いたことが、自身を見つめ、将来や職業について考える良い機会となっていると思う。今後も、このようなキャリア教育を進めていただきたい。 ・多様化の時代、変化に柔軟に対応できる「しなやかさ」を身につけていってほしい。
		生徒は、目標を持ち毎日の学校生活を送っているか。	A		
	共生する態度の実践	学級(学校)には、互いにルールを守り協力する雰囲気があるか。	A	「ルールを守り協力する雰囲気がある(89%)」「学校が楽しい(87%)」「相談できる友人や先生がいる(90%)」の3項目の結果から、生徒同士の中で温かな人間関係と、落ち着いた学校全体の雰囲気がわかる。「欠席率が高いこと」は継続して本校の大きな課題であるが、教育支援員・SC・SSWや支援センターなど外部人材・組織と学校・家庭とが上手に連携しながら、地域全体で生徒を育てていけるよう心掛けたい。	・欠席率の減少に向かう特効薬はないと思えます。生徒の気持ちに寄り添い、傾聴することが、時間はかかっても確かな解決策ではないでしょうか。 ・欠席率が高いことを学校の重要課題と捉えて、保護者と関係団体等の協力により、登校に向けた支援強化や生徒の様子を細かく観察し、心に寄り添った指導に努めてほしい。 ・小学生で不登校の傾向があると、中学生になっても継続して不登校になる可能性は高い。中学で新たな不登校の生徒を出さないよう、教師と生徒、生徒間の「対話」のできる環境づくりをお願いしたい。また、地域住民として、見守り等できることがあれば声掛けしていただきたい。 ・学校全体は穏やかに落ち着いていると感じられる。
		生徒は、悩み事を相談できる人が学級や学校にいるか。	A		
		生徒は、学校が楽しいと感じているか。	A		
	健やかでつよい心身の育成(心豊か)	心身を成長させる諸活動の実践(南中賛歌)	生徒は、あいさつや返事がしっかりとできるか。	B	「あいさつ・返事ができる」と感じている生徒が95%、保護者評価は88%と高いが、声の大きさや元気の良さという点では、学校職員は下降気味と感じている。今後も、生徒会を中心に小学校も巻き込みながら挨拶運動などを展開し、気持ちよく挨拶ができる暖かな雰囲気を地域全体で作り上げる活動を試みたい。ボランティアには多くの生徒が積極的に参加しており、校内及び地域に貢献できるようなボランティアの輪を広げていける雰囲気づくりを行いながら「地域から頼られる中学生」の育成に努めたい。
生徒は、校歌を堂々と歌うことができるか。			A		
生徒は、ボランティア活動に積極的に参加しているか。			B		

<学校関係者評価を受けてのまとめ>

- 学習指導要領の改訂を受けて、教育課程の大きな見直しの時期を迎えている。授業の改善や行事開催時期の変更など、本校の教育活動をより充実させるための取組について地域や家庭に広く知っていただくとともに、「地域とともにある学校」として『ひと・もの・こと』の相互交流を進めていきたい。
- 深い生徒理解を基盤として「居心地の良い学級づくり」と「わかる授業づくり」を進める。また、生徒指導主事を中心に養護教諭やSCおよび外部機関との連携を図り、本校の喫緊の課題である不登校への予防と対応を図る。
- 井通・青城学府小中一貫教育による、あいさつ運動や健康教育など、小中9カ年を見通した取組を推進し、学校から家庭や地域へと輪を広げられるよう努める。